

OLS 活動奨励賞	p1
第25回 日本骨粗鬆症学会 OLS かわら版編集チーム推薦演題	p2, 3
学会からのお知らせ	p4

OLS活動奨励賞

骨粗鬆症専門外来における OLS 活動の工夫と成果

社会医療法人美杉会男山病院薬剤部¹⁾、同 看護部²⁾
原 敬¹⁾、西口紗穂¹⁾、酒井啓子²⁾、多田まや²⁾

はじめに

当院は京都府南部に位置する199床の地域の中核病院である。当院が位置する京都府において令和2年度の市町村国保とけんぽを合わせた特定健診実施率38.0%に対し骨粗鬆症検診率は2.0%に届かず非常に低い。骨粗鬆症が単なる加齢による変化で、病気と認識されていないことが一番の問題であると考えた。

そこで、骨粗鬆症を病気だと認識してもらい、早期に発見・治療開始することで、地域の健康寿命を伸ばすことにつながると考え、骨折リエゾンサービス (FLS) から活動を開始し、次に骨粗鬆症リエゾンサービス (OLS) へと拡大していった。

OLS チームの立ち上げから、骨粗鬆症マネージャー取得、院内から院外へと活動を広げていった活動内容の紹介をする。

OLS 活動発足からの苦労と取り組み

- 2019年12月 OLS チーム発足
- 2020年 4月 FLS 活動開始
- 2021年 4月 骨粗鬆症専門外来開設・OLS 活動開始
- 2021~2023年 日本病院学会・骨粗鬆症学会にて発表
- 2022年 6月 男山みんなであつなぐ骨の会設立 地域連携開始
- 2022年12月 骨粗鬆症マネージャー取得
- 2023年 4月 骨粗鬆症マネージャーによる相談室開設

① OLS 活動の認知不足

当初、骨粗鬆症が健康寿命を短くする病気という認識がスタッフも患者も低かった。また OLS 活動自体がスタッフに認知されていなかったため、院内全体勉強会や各部署での個別の勉強会を実施し、どのような活動をしているのかを伝えスタッフ教育を行った

② 広報活動 (患者・家族への教育内容)

骨粗鬆症啓発のために、院内掲示ポスターを作成。病気だという認識を上げるため、骨粗鬆症の病態およびリスク、薬物療法、運動療法、食事療法が一冊で説明・理解ができるような当院独自の骨粗鬆症ガイドを作成。季刊誌 (骨粗鬆症便り) を各部署で順番に発刊し、誰にでも手にとってみてもらえるよう設置

③ 多職種が連携するための取り組み

活動報告や問題点改善のため3カ月ごとに OLS 委員会を開催。骨粗鬆症マネージャーによる定期ミーティング

④ 骨粗鬆症専門外来

骨粗鬆症マネージャーが診察に立ち会う。医師とともに検査結果からおののに適した治療方針を立て、診察終了後、骨粗鬆症マネージャーが患者・家族に当院作成の骨粗鬆症ガイドを用いた教育・指導。生活上の注意点などを説明し、治療に対する不安除去および、治療継続につながる。患者の治療経過が一目でわかるようにデータ管理

⑤ 他科へ協力依頼

全科医師への働きかけ。骨粗鬆症マネージャーから、50歳以上女性・長期ステロイド使用者・腰痛等で受診された方に骨密度検査 (DXA 法) を勧めってもらうよう病院長より医局会で申し入れ

外来通院患者にパンフレット配布 (続発性骨粗鬆症について)

⑥ 地域連携

ふれあい便りを作成し、骨粗鬆症専門外来の紹介・近隣開業医へ郵送。地域連携手帳 (図1)・定型文紹介状を作成し、かかりつけ医との情報共有。近隣開業医とのつながりをもつため「男山みんなであつなぐ骨の会」設立。地域の歯科医師会長と面談し、医科歯科連携開始

⑦ 骨粗鬆症マネージャー取得

医師の協力と各種勉強会参加などの病院からのバックアップ

⑧ 無料の骨粗鬆症相談室

未治療患者のみならず、すでに治療開始されている患者も気軽に利用できる。FRAX® 算定し骨折リスクと骨粗鬆症についてパンフレットを渡し説明。必要時、骨粗鬆症専門外来受診予約

⑨ 骨粗鬆症マネージャーのモチベーション維持

相談室で患者・家族対応し骨粗鬆症の早期発見・治療開始につなげることができた。資格取得により専門分野の知識が向上。学会や研究会の参加・発表頻度が増えた。各部門や院外との関係性の構築。降雪の日に17件の転倒による骨粗鬆症未治療の橈骨遠位端骨折受傷患者来院、骨粗鬆症マネージャーがピックアップし治療開始へつなげた

OLS 活動の成果

① 骨密度検査数の増加 (図2)

OLS 活動開始前と比較し、開始後は年度ごとに大幅増加

② 骨粗鬆症治療薬の処方件数増加 (図3)

OLS 活動開始前と比較し、開始後は内服薬、注射薬の処方件数が年度ごとに大幅増加

③ 地域患者の骨粗鬆症専門外来受診率の上昇

骨粗鬆症専門外来受診患者のうち、地域開業医からの紹介と検診要精密検査者、患者希望での骨粗鬆症専門外来受診率が18%から32%へ上昇

④ 院内での OLS に対する認知度の向上

病院全体としての取り組みとなり、国際骨粗鬆症財団 (IOF) へ申請することができた

今後の展望

地域には未治療の骨粗鬆症の患者が潜在的にいると考えられることから、市などの自治体にも働きかけ、骨粗鬆症啓発から治療までを地域として進めていくために骨粗鬆症マネージャーとして活動の範囲を広げていきたいと考えている。また、当院において骨粗鬆症マネージャーの人数も増やしていけるよう院内の普及活動を定期的に行っていきたい。

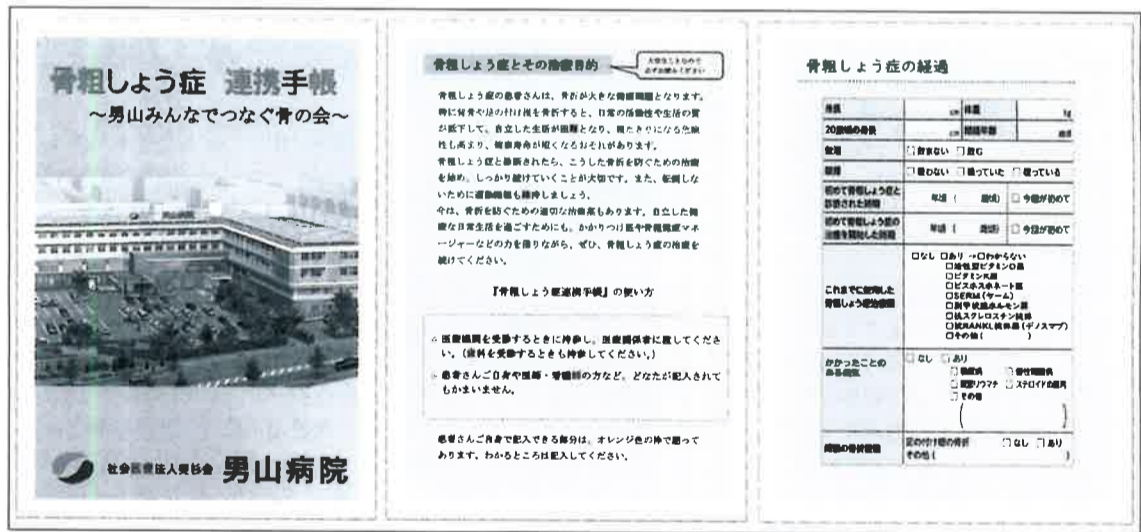


図1 骨粗しょう症連携手帳

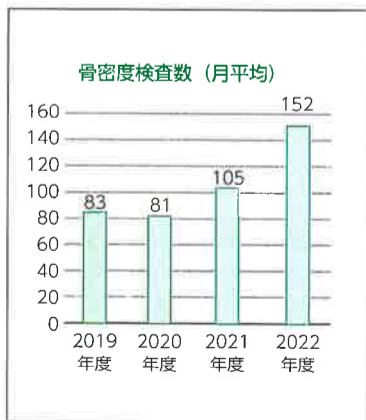


図2 骨密度検査数



図3 骨粗鬆症治療薬処方件数